

学校教育目標	「夢をえがこう 自分をえがこう 嶮山あったかハーモニー」 【知】自ら学び、しっかり考える子を育てます。 【徳】思いやりのある子を育てます。 【体】たくましい子を育てます。 【公】まちとともに生きる子を育てます。 【開】夢をもち、チャレンジする子を育てます。			
	創立 47 周年 児童生徒数: 352 人	学校長 河合 智樹 主な関係校: すずき野中学校	副校長 西田 智美	2 学期制 一般学級: 12 個別支援学級: 4

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	すずき野中・あざみ野中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
意欲をもって学び続ける力 健康な心と体をつくらうとする力 よりよい自分を築こうとする力 多様性を認め協働する力 かかわりを求め喜びを共有する力	すずき野中 あざみ野中 荏子田小 黒須田小 あざみ野第一小 あざみ野第二小	○自分らしく、共に生き、社会に貢献する子 小中学校間で学習指導や生活指導の円滑な接続を重視するとともに、児童・生徒間の交流や小中教職員の交流を積極的に図ることによって、子どもたちに必要な資質・能力を育てる。 特に、すずき野中、嶮山小は二校合同の学校運営協議会等を通じて二校での連携を深め、「9年間で育てる子ども像」に沿った育成を進める。

中期取組目標	○時と場、目的に応じて「あいさつ」をしたり、「ありがとう」と感謝の言葉を伝えたり、「あったかことば」を使うことで、他者と温かく関わろうとする態度を育成し、適切な人間関係を構築できるようにします。 ○「歯と口の健康づくり」「心の健康」を推進し、心と体のつながりをふまえて自分の健康に目を向け、健康を保持・増進しようとする子を育てます。 ○これまでに獲得している知識と新たな知識を関連付けたり、組み合わせたりして理解したり、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能を身に付けたりできるような「生きて働く知識・技能」を育成する。 ○特別支援教育の推進やいじめの未然防止・早期解決にチームで取り組み、どの子ども安心して過ごすことができるような学校風土を構築します。
--------	---

重点取組分野	具体的取組				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">知</td> <td>授業改善</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>研究研修部</td> </tr> </table>	知	授業改善	担当	研究研修部	①前年度と引き続き、子どもの「理解する」ことに注目し、既得の知識と新たな知識が関連付き、概念化されていくとはどういうことかを考えていく。②「根拠」「整合性」「一般性」「よさ」といった価値ある問いが繰り返し生まれる授業の文脈の在り方について考える。 ③自主学習のアップデートに向けて、授業と宿題を関連付けた指導の在り方を考える。
知	授業改善				
担当	研究研修部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">徳</td> <td>人権教育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>学校運営部</td> </tr> </table>	徳	人権教育	担当	学校運営部	①「ありがとう」「あいさつ」「あったか」の3つの「あ」を軸にして、朝会や集会など様々な活動場面で提示することで、自分の気持ちも相手の気持ちも大切にすることを育てる。②定期的にYPを活用して、常に子どもの実態を把握し、適切な人間関係を構築する力を育む。
徳	人権教育				
担当	学校運営部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">体</td> <td>健康教育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>健康安全部</td> </tr> </table>	体	健康教育	担当	健康安全部	①これまで積み重ねた保健教育、安全教育、人権教育、食育等を総合的な健康教育として構築し、実践的な取組として推進する。②保護者に積極的に情報発信し、一緒に健康教育を考える場を作っていく。
体	健康教育				
担当	健康安全部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">公開</td> <td>地域学校協働活動</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>学校運営部</td> </tr> </table>	公開	地域学校協働活動	担当	学校運営部	①地域と関わる活動を充実させる。挨拶を軸として感謝の気持ちを伝えたり、知的好奇心や共感性を高めたりできる子どもの育成を図る。②「フレンドくんの会」の活動や地域行事への参加を通して、「社会に開かれた学校」を目指し、地域とのつながりを深める。
公開	地域学校協働活動				
担当	学校運営部				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">いじめへの対応</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>健康安全部</td> </tr> </table>	いじめへの対応		担当	健康安全部	①日々の児童との関わりに加え、YPアセスメントやいじめ未然防止アンケートの結果を踏まえ、児童や保護者と面談し、問題解決に取り組む。②「いじめ未然防止」の徹底。児童支援専任へのいじめ発覚時点での報告をし、学年ブロックで情報共有を行う。組織的な対応で児童の安心、安全に繋げる。
いじめへの対応					
担当	健康安全部				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">人材育成・組織運営(働き方)</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>研究研修部</td> </tr> </table>	人材育成・組織運営(働き方)		担当	研究研修部	①教科・学年を超えた教材研究ができるよう、引き続き、重点研やメンター研の位置に重きをおいた認識をもてるようにする。 ②ねらいや価値を明確にした教育活動の在り方を引き続き追及する。 ③所見等を対象に、AIを効果的に用いた仕事の在り方について考える。
人材育成・組織運営(働き方)					
担当	研究研修部				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">特別支援教育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>特別支援教育コーディネーター</td> </tr> </table>	特別支援教育		担当	特別支援教育コーディネーター	①教職員が全校児童について情報共有する時間を持ち、必要に応じてケース会議を開き、児童にあった支援につなげる。②外部機関と連携し、それを生かした授業の工夫や個別の支援を行う。個別の指導計画については、本人の思いを捉え、保護者と合意形成して作成する。
特別支援教育					
担当	特別支援教育コーディネーター				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">情報教育・ICT活用</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>研究研修部</td> </tr> </table>	情報教育・ICT活用		担当	研究研修部	前年度、成果につなげることができなかったため、引き続き以下の2点について取り組む。①資質・能力をよりよく育成するためにICTをいかに活用する必要があるか、重点研究と関連付けて研究を続けていく。②「デジタルの力でリアルな学びを支える」ために、積極的にどのような活用方法があるのかについて考え、積極的に授業の中で取り組んでいく。
情報教育・ICT活用					
担当	研究研修部				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">児童指導</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>健康安全部</td> </tr> </table>	児童指導		担当	健康安全部	①児童の背景要因(人間関係・家庭や地域環境)を捉えた上での指導を行う。②「嶮山スタンダード」を自分たちの生活をよりよくするための拠り所と考え、一貫性のある指導を行う。児童にも年度ごとの見直しを確認する。SC,SSWや家庭との連携を充実させて望ましい生活習慣の確立を目指す。
児童指導					
担当	健康安全部				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">b10</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td></td> </tr> </table>	b10		担当		
b10					
担当					